

協力隊通信

月刊ニュースレター

自己紹介



はじめまして。9月から耕野まちづくりセンターに着任しました、鈴木舞香と申します。岩手県遠野市出身です。耕野は遠野よりもさらに山深く驚きましたが、美しい景色があちこちにあり、写真を撮るのが楽しいです。

大学卒業後、青年海外協力隊としてザンビアで稲作栽培の普及に関わらせてもらいました。帰国後、千葉の農場で働いた後、縁あって丸森に来ることができました。丸森・耕野の人、文化、技術を多くの人に知ってもらえるよう、私自身少しずつ、じっくり丸森の魅力を発見していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

敬老会と看板立て

9月12日。まちづくりセンターで敬老記念品配布を行いました。また、地域の道路標識の交換作業が行われていました。祝い品配布後、タイミングよく農家さんから預かった地図をもとに、看板部隊を探す旅へ。最後の一本に何とか間に合いました。看板に文字を彫り、ペンキを塗るところから、立てるまで全て手作業。耕野のあちこちにさりげなく立っている看板も、こうやって地域の人々の手が加わっているから、余計温かみを感じられるんだなあ、しみじみ思いました。

暑い中、本当にお疲れ様でした。



柿農家さん訪問

川部さんの後任として、イオンのボランティア事業や援農ボランティアを担当させていただくことになり、今回初めて柿農家さんを訪問しました。今年は遅霜と病気の影響で、例年になく不作となっているとのこと。一面に広がる柿畑が、オレンジに染まる光景は圧巻だろうなあと思惟しながら、お話を聞かせていただきました。

毎年同じ人がボランティアに来ることもあり、時には友人を連れてくることもあるそう。ころ柿づくりで繋がった縁が、こうして今も続いていることに驚きました。お忙しい中、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



水不足と牛の旅立ち

9月22日、八島英俊さんの牛を、筆甫の牧場へ移動させるということで、同行させていただきました。

これまで英俊さんの家では、地下水や湧き水を、生活用水・飼育用水として利用していました。しかし、一昨年8月から水不足に悩まされるようになったそうです。もともと水が豊富な地域で、湧き水が出なくなることは、これまで一度もなかったとのこと。今では、溜めておいた湧き水や運んできてもらった水を利用しなければ、生活にも困るほどです。冬にはさらに水不足が深刻になる可能性があることから、飼っている6頭の成牛のうち、3頭を牧場に預けることにしました。牛にはそれぞれ、生まれた季節にちなんだ名前がつけられ、生まれてから一度も家を離れたことはありませんでした。春先に水が戻れば家に連れて帰ることができますが、戻らない場合は売らざる負えなくなるそうです。

何十年とこの土地で畜産業を営んできたにも関わらず、自分の意志とは関係なく、家族の一部を手放さなければならない状況になってしまったこと、生命線である水がいつまた止まってしまうかも分からない、不安な生活が続いていることに、悲しみを覚えました。自然に即さない形で何かを始めてしまったとき、生態系が壊れるのは本当に一瞬なんだと、大切なことを目の前で学ばせてもらいました。大変な状況の中、時間を割いてくださり、また貴重な水で炊いた栗ご飯までいただき、本当にありがとうございました。



阿武隈川を眺めながら食べる
ラーメンの美味しいこと



休憩中にまちセンの下の小川で
捕獲した小魚（ハヤ）。
日々成長中。

編集後記

丸森に来て早くも1カ月半が経ちました。来た当初から、農家さんに会わせてもらったり、イベントに参加させてもらったり。初めて経験することも多く、慣れないことも多くありますが、毎日驚きと学びの連続です。

ようやく少し運転にも慣れてきて、たまには冒険してみようと、通ったことのない道を行ってみることに。まんまと道に迷い、近所のおばあさんに助けられました。そんな出会いもたまた楽しい。活動も生活も、楽しみながら一步一步進んでいきたいなと思います。